The 47th Annual Meeting of the International Society for Pediatric Neurosurgery に参加して

バーミンガム
2019.10.20−10.24

宮田 真友子 *Mayuko Miyata*
関西医科大学 脳神経外科

2019年10月20日から24日までイギリスのBirminghamにて開催された，The 47th Annual Meeting of the International Society for Pediatric Neurosurgery（ISPN2019）に参加させて頂きました．

自身の経験としては初めての国際学会で，また埜中先生にご指導頂き演題がplatform presentationに採択され，何か月も前から非常に緊張していました．今回の開催地はイギリス・バーミンガムでした．

関西国際空港から乗り継ぎの羽田空港に向かう飛行機が大幅に遅延し，出だしから国際線に乗れないかもしれないという危機に直面し不安でいっぱいでしたが，何とか10月20日にバーミンガムに到着しました．バーミンガムはイギリス第2の大都会と言われ，人口113万7000人の都市です．ニューストリート駅の近くには近代的なデザインのショッピングセンターなどが立ち並んでいますが，5分ほど歩くとヴィクトリア・スクエア周囲のルネッサンス様式の建物があり，新旧が混在している雰囲気が魅力的でした．また，バーミンガムでは産業革命時に街に多くの運河が引かれたそうで，水の都としての一面があり，今回ISPN2019の会場となった国際会議センターの周囲にもたくさんの運河が流れていました．

10月20日の朝にバーミンガムに到着しその日はwelcome receptionのみだったので，日中は街中を散策しました．伝統的なEnglish breakfastを食べ，バーミンガム美術館やバーミンガム博物館に行きました．数多くの美術品が展示されているにも関わらず，どこの文化施設も無料で入ることができ，日本との文化の違いを感じました．

2日目の10月21日からはいよいよプログラムが始まりました．Craniofacial sessionから始まり，夜まで数多くのセッションに参加しました．Keynote Lectureの後に各施設からの発表が続き，各疾患への理解が深まったとともに，日本とは少し異なる興味深い治療法などがあり，セッションを聞いている時間はあっという間だったよう

写真１　会場周辺の運河

写真２　バーミンガム・ヴィクトリア スクエア

写真３　バーミンガムの街並み

写真４　発表の会場となった The ICC Birmingham Hall A

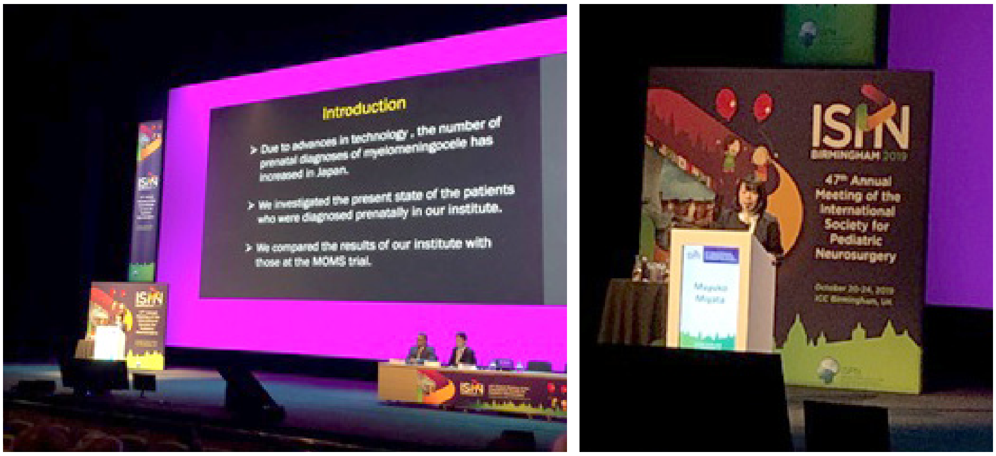

写真 5，6　myelomeningocele の当施設での現状について発表させて頂きました

に思います．夜は普段お話しする機会がないような，日本を代表する小児脳神経外科の先生方とお食事をご一緒することができ，いろいろなお話を聞かせて頂き，このような経験も国際学会の醍醐味であるように思いました．3 日目のセッションは昼過ぎまでで，そこからは学術的なプログラムはなく，学会のオフィシャルツアーなどの観光プログラムが組まれており私もロンドンまで足を伸ばしました．

4 日目はいよいよ自身の発表でした．Myelomeningoele のセッションで，海外の施設からは胎児治療の話が飛び交う中，胎児治療が導入されていない日本の現状を発信することができたかと思います．特に中絶率の高さに関しては，国によって宗教観の違いが大きく関与する部分であり，関心をもって頂いた印象を受けました．

業務の都合で，自身の発表の後にはもうイギリスを発たねばならず，ガラディナーに参加できなかったことは残念でしたが，初めての国際学会は非常に貴重な経験となりました．まだまだ私は小児脳神経領域の経験が少ないですが，今後今回の学会でお話しさせて頂いた先生方のような日本の小児脳神経外科医の一員となれるように，そしてまたいつか ISPN で発表し議論できるように，これからも精進しなければならないと気を引き締めました．

（2020 年 2 月 20 日）